

2017 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [岡崎市立秦梨小学校] 担当教諭名 [黒野 峰幸] (6年1組 10名)

相手国・地域 [台湾]

海外学校名 [Ying-Qiao Elementary School] 担当教諭名 [Wan-Ting, Shih]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教 科	単 元 名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	秦梨小学校のことを台湾に伝えよう。	14
	図画工作	秦梨の自然や文化を壁画に描こう	12
	総合的な学習の時間	台湾の子供たちにメッセージを送ろう。	8

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	日本と台湾の特色のある行事と地域の自然や文化を伝え合おう
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	様々な交流を通して、互いの国や地域・学校に対する理解を深め、伝統的な行事や地域の自然と文化を壁画にすることによって、環境保全や伝統文化などの大切さに気づき、それを継承していきたいというメッセージを伝え合いたい。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
・相手の学校との類似点や相違点を対比することで、自分の学校や地域を見つめ直す機会になった。 ・テレビ会議に取り組んだことで、相手の顔を見たり、声を聞いたりして交流でき、親しみを感じながら活動することができた。 ・活動を全校児童や地域に伝えることができた。	・相手校の長期休暇は、スケジュールシートで確認できたが、学校行事については把握することができず、互いに行事と重なった時期には、相手校からの連絡にすぐ対応できないことがあった。 ・指導者、児童ともに英語を話せず、相手校の意図や要望に沿えないことがあったように感じる。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
・本校が過去の交流した国(ニカラグアとウガンダ)に比べると台湾は近い国で、子供たちのイメージとは少し違っていた。しかし、今までにない活発な交流によって、活動への意欲を高めることができた。 ・相手校の活動や台湾の文化や風習、気候などを知ることによって、国際理解を図ることができた。	・今回は、テレビ会議やメッセージカードの交換など、様々な活動に取り組んだ。最初は、相手校の先生との連携を図るのに苦労したが、情報の送受信を繰り返すことで円滑に進めることができた。 ・子供たちと同様に相手国に対する理解を深めることができた。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活 動 内 容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	8月 9月	台湾の子供たちに自己紹介をしよう	テレビ会議で行った。英語を話すことに戸惑っていたが、相手校の子たちが、挨拶を返してくれたり、手を振ってくれたりして、和やかに交流できた。	総合6
共有 テーマ学習	9月 10月	学校紹介をして、互いの国や学校のことについて理解を深めよう	フォーラムで学校紹介を行い、それをもとにして互いに質疑応答をした。プレゼンテーションやテレビ会議を使用し、互いの国や学校、地域のことに對する理解を深めることができた。	総合8
融合 想いを形に ・メッセージ ・壁画デザイン	11月	壁画のレイアウトと描く内容を決めよう	相手校からのアイデアや過去の壁画のデザインを参考にして、活発に話し合いを進めていた。日本と台湾の子が手をつなぐとか、その子が風船を持つなど、いろいろな意見が出された。	図工4
創造 壁画制作	11月 ～ 1月	壁画を制作しよう メッセージカードの交換をしよう	自分が担当した部分だけでなく、みんなで協力をしながら制作活動を進めていた。台湾からのクリスマスカードのお返しとして、ニューイヤーカードの制作にも意欲的だった。	図工8 総合4
評価 振り返り 自己評価	2月 3月	全校児童や地域の方に活動の成果を報告しよう 台湾の子たちにお礼のメッセージを送ろう	保護者が集まる行事の際に、壁画を展示し、活動内容を報告することができた。お礼のメッセージをビデオレターにして送ることができた。	総合4

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価（5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった）

学習目標・つきたい力	評価	先生が手応えを感じた場面・理由
自文化を理解する力	5	台湾の文化や習慣、気候と対比することで、自分たちが過ごす地域を見つめ直し、客観的かつ多面的に考えることができた。
異文化を理解する力	5	台湾との類似点や相違点を明確にすることで、異文化に対する理解を深めた。台湾に行ってみたいと感じる児童も多くいた。
情報活用能力 (収集・まとめ・発信)	4	いろいろな方法を使って情報を発信できたことはよかったが、情報収集やまとめについては、十分な時間を確保できなかった。
コミュニケーション力 (双方向・共感・英語)	4	テレビ会議による交流を取り入れたことで、コミュニケーション力は格段に高まった。英語に関しては、難しい面もあった。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	4	自らの生活や地域を客観的に振り返る機会にはなったが、台湾については初めて知ることが多く、批判的な視点には至らなかった。
主体的に考え行動する力	4	子供たちにとって貴重な経験であったが、初めての経験ということもあって、指示された内容に沿って活動することが多かった。
他者と協働する力 (学級内・海外の相手)	5	壁画の制作では、協力して活動する姿が多く見られた。相手校とも言葉の壁を少し感じたが、共通理解を図ることもできた。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	5	相手校の意向や過去のデザインを参考にして、自分たちの納得できる形で表現できた。自分たちの思いを伝えることができた。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	4	壁画を展示し、活動の内容を全校に報告できた。活動の成果に対して、それぞれは満足しているが、その基準は曖昧であった。